

り入れました。使用した機種は1 mm 以下の精度でコンターが描けるという点で目新しく、遺物の測量への応用を考えた研修生は多くいました。

発掘技術者研修「測量外注管理課程」

この研修は、遺跡測量を外部へ発注する際に、1) 適切な仕様書が提示できること、2) 成果品が点検できること、のために必要な基礎知識と実務を習得するのが目的です。基礎知識を得るためには、測量の実際を体験することが理解への近道ですので、班に分かれて実習をするわけですが、今年はある班で水準測量の成果が悪かったために、日没後に再測するというようなハプニングもありました。測量の実際は体験すればよい、という程度に考えていましたが、結果があまりにも悪いと、どうしてもやり直したいというのは人情であろうと思われれます。



実習風景

実習は二段階に分かれています。一つは、光波測距儀を使って宮内を1 km にわたってトラバースする基準点測量を想定した作業、もう一つはその路線上のある地点を発掘の現場に見立てて平板測量や細部測量に用いる図根点を増設する作業です。後者の測距にはスチールテープを使います。水準測量は全路線にわたっておこないます。

ここ数年、わが国の測量システムが変わり、世界測地系へ移行することが話題となっています。本研修課程でも毎回それについて紹介してきましたが、2001年6月に法律が国会で承認され2002年4月より実際に施行されるという状況になったので、今回はより切実に受けとめたようです。しかしながら、実際にはどのように対応したらよいか分からないというのも、正直なところです。

将来の測量の方向を示すものとしては、GPSと3D スキャナーを紹介することが必要と考え、今回はいつものGPSに加えてスキャナーの実技見学を取